

あきた未来づくりプロジェクト調書

市町村名

湯沢市

プロジェクト名	資源活用型ゆざわ地域づくり推進プロジェクト ～ ジオパーク認定を契機とした地域活性化プロジェクト ～	分野	特色ある観光振興、地域産業の振興、文化の振興
展開期間	平成24年度～平成28年度	新規・継続の区分	新規
プロジェクトの背景 (地域における現状、課題及び住民ニーズ)	<p>① 市町村の主要課題 少子高齢化の進行(平成22年国勢調査:高齢化率32.6%)や人口減少(平成23年4月1日:52,077人)が続いているほか、岩手・宮城内陸地震や東日本大震災の影響により、観光客数、特に宿泊客数が減少している。また、平成17年3月の合併後に「湯沢市総合振興計画」を策定し、市民と行政が一体となって地域の資源を磨くことを通じ、全市の一体感醸成による人づくりやまちづくりを図ることとしている。</p> <p>② ゆざわジオパークの取組 湯沢市の豊かな自然や歴史文化、多彩な祭り、豊富な温泉資源や特産品など、魅力的な地域資源を対象に、学びを媒介とした人材育成を図るとともに、観光資源としても情報発信・利活用することにより、交流人口の拡大と産業振興に資することを目標にジオパーク構想を平成23年7月に策定した。平成24年4月に日本ジオパークネットワークに申請し、9月に認定済みであるが、今後ともジオサイトへのアクセシビリティ向上に必要なハード整備を進めるとともに、交流人口拡大に向けたソフト事業を継続的に実施していく必要がある。</p> <p>③ 住民ニーズ ジオパークの取組は、観光関連業種に特化した産業振興だけではなく、一般市民も一丸となって、ジオパークのガイド活動などに携わりながら、交流人口の増加や滞在時間の延長を目指すものである。取組の推進母体は、36団体により構成される推進協議会であり、自治会やガイド団体等、多くの住民組織と協働で取り組んでいる。市民を対象とした協働の取組としては、講演会を2回(約500人参加)、フォーラム開催(約300人参加)、出前講座を13回開催したほか、ジオガイド養成講座には109名の受講があるなど、市民のジオパークに寄せる期待が非常に高まっている。 また、地域自治会単位でも、稲庭歴史講演会の開催や小野城址の公園整備など、ジオパーク関連の積極的な取組が行われていることから、住民の高いニーズが伺える。</p> <p>④ 県施策との整合性 湯沢地域の魅力ある資源をまるごと活用して、ゆざわジオパークを中核とした住民参加型の地域づくりを行うことは、学びの実践による人づくりや、ジオパークを巡るツアー等の推進による交流促進に資するものであり、住民による自発的で継続的な地域貢献と交流人口の増大による地域振興とがマッチングする先駆的な取組である。本プロジェクトは、持続的な地域づくりを下支えする人材育成と、本県の「南の玄関口」である湯沢市への観光交流の拡大とが相乗的に実現されることから、他地域のモデルとなり得るなど、全県的な波及効果がある。 また、川連漆器や酒、稲庭うどん等の地場産業、さくらんぼ等の農産物と結びつくことで、地域産業の振興につながる。</p>		
プロジェクトの目的及び概要	<p>湯沢市の自然環境や地質資源、歴史・文化等をまるごと活用し、ジオパーク認定を契機として、全市民を巻き込んだ学びによる地域を支える人づくりを通じて地域への誇りにあふれ、おもてなしの心に富んだ湯沢らしさを広く発信するとともに、交流人口の増大による地域活性化に資するため、本プロジェクトを実施するものである。</p>		
プロジェクトを構成する事業の概要等	<p>【市町村実施事業】※1</p> <p>【1 まち歩き拠点施設の整備と情報発信】 ○ 中心市街地の賑わいと歴史を堪能するまち歩き整備(ハード) 住民と観光客が歴史散策を満喫し、湯沢らしさに触れ合えるようにするため、湯沢三大まつりの起源である湯沢城址や行幸啓のあった前森公園、街なか交流イベント広場の整備、及び湯沢大堰水路沿線の修景整備を実施。 ○ まち歩き支援システムの構築等による情報発信(ソフト) ・ まち歩きナビゲーションシステム(スマホ)の導入 ・ スマートフォンでも閲覧可能な「Webの駅ゆざわ」による観光・歴史・物産情報等の発信(動画サイト制作)等</p> <p>【2 歴史・文化の学びの場づくり】 ○ 歴史的建造物や文化財展示・体験施設の整備(ハード) 旧雄勝郡会議事堂の改修や埋蔵文化財の展示・体験施設を整備することにより、湯沢市独自の歴史文化に親しみ学ぶ機会を提供。 ○ ジオパークを活用した学びの実践(ソフト) 歴史と文化に恵まれた「ゆざわジオパーク」を知ってもらうため、関連する講演会や小中学校への出前講座、啓発イベント等を開催し、市民を対象にジオパークの担い手を育成する。</p> <p>【3 ジオ巡りを推進する基盤づくり】 ○ ジオパークの誘導サイン整備(ハード) 周遊しやすい環境を整備し滞在時間の延長を図るため、見やすく統一感のある案内・誘導看板等を設置する。 ○ ジオガイド等の人材育成及び受入態勢の整備(ソフト) 来訪者により湯沢を楽しんでもらうため、ジオガイドの養成、ジオ検定と認定登録、ジオ巡りツアーの総合ガイドブックの作成を実施する。 ○ 旅行商品の企画・造成(ソフト) 誘客を促進するため、ジオサイトをテーマごとに巡るツアー(推進協議会主催及び委託)の造成を行い開催する。 ○ 学術調査の継続実施と推進協議会の運営(ソフト) ジオパーク推進協議会の運営を通じ、さらに湯沢市の良いものを掘り起こすため、継続的な学術調査を実施する。</p>		

<p>プロジェクトを構成する事業の概要等</p>	<p>【県実施事業、県市協働事業】</p> <p>県事業 ○ 地域づくり活動の支援 ○ 自然体験型教育旅行の実施支援 ○ 各種情報発信</p> <p>県市協働事業 ○ まち歩きマップの作成、仙台圏・首都圏での誘客推進プロモーションの機会を利用した、ゆざわジオパークの広報等</p> <p>関連事業 ○ 仙台圏からのアクセス性向上 ※ 総事業費に含まず</p>																								
<p>協働により見込まれる効果</p>	<p>県及び湯沢市では、本プロジェクトを推進する中核組織として、ジオパーク活動の活動主体である湯沢市ジオパーク推進協議会(市民、自治会等の地域活動団体、学校、地元企業、商工団体、鉄道・バス・タクシー会社、行政機関等により構成)を位置付け、出前講座や学習会、講演会、ジオガイド養成講座等を市一丸となって展開することにより、学びの実践と地域資源の磨き上げを通じ、ふるさと湯沢の良さをより深く自覚し郷土愛にあふれた人材を育成することが可能となる。また、そのことがひいては、おもてなしの心に満ちた受入態勢の構築にもつながり、県内交流(県北部から湯沢への訪問等)や隣県交流等の増大に資するものである。</p>																								
<p>住民・民間団体等との協働</p>	<p>ジオパーク活動の実施主体として行政・地域社会・民間が一体となって行動するため、平成23年3月29日に36団体から構成される「湯沢市ジオパーク推進協議会」(会長:湯沢市長)を設立した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 構成部会 <ul style="list-style-type: none"> ①住民部会 (普及・啓発・住民活動等) ②観光部会 (観光振興・ツーリズム) ③教育部会 (調査研究・教育普及) ④ガイド部会 (ガイド認定・養成・組織化) ⑤行政部会 (施設の維持管理・関係団体の調整) ● 主な主催事業 <ul style="list-style-type: none"> ①ジオサイトの案内ガイドの養成 ②ジオパーク応援隊の組織化 ③ジオサイト施設の維持管理を行政と協働で実施 ④出前講座の開催 ⑤公園愛護会等による施設管理 (市からの受託) 																								
<p>成果指標(数値) ※3</p>	<table border="0"> <tr> <td>① ジオガイドの養成数</td> <td>H23年度</td> <td>0人</td> <td>→</td> <td>H29年度</td> <td>60人 (皆増)</td> </tr> <tr> <td>② ジオガイドの利用者数</td> <td>H23年度</td> <td>0人</td> <td>→</td> <td>H29年度</td> <td>2,500人 (皆増)</td> </tr> <tr> <td>③ ジオパーク関連の主要施設利用者数</td> <td>H23年度</td> <td>95,000人</td> <td>→</td> <td>H29年度</td> <td>105,000人 (10.5%増)</td> </tr> <tr> <td>④ まち歩きナビのアクセス数</td> <td>H23年度</td> <td>人</td> <td>→</td> <td>H29年度</td> <td>2,400人 (皆増)</td> </tr> </table>	① ジオガイドの養成数	H23年度	0人	→	H29年度	60人 (皆増)	② ジオガイドの利用者数	H23年度	0人	→	H29年度	2,500人 (皆増)	③ ジオパーク関連の主要施設利用者数	H23年度	95,000人	→	H29年度	105,000人 (10.5%増)	④ まち歩きナビのアクセス数	H23年度	人	→	H29年度	2,400人 (皆増)
① ジオガイドの養成数	H23年度	0人	→	H29年度	60人 (皆増)																				
② ジオガイドの利用者数	H23年度	0人	→	H29年度	2,500人 (皆増)																				
③ ジオパーク関連の主要施設利用者数	H23年度	95,000人	→	H29年度	105,000人 (10.5%増)																				
④ まち歩きナビのアクセス数	H23年度	人	→	H29年度	2,400人 (皆増)																				
<p>推進体制 (プロジェクトチーム)</p>	<p>市 : 企画課、まるごと売る課、都市計画課、教育委員会生涯学習課 県 : 観光戦略課、観光振興課、道路課、教育庁総務課・義務教育課、雄勝地域振興局、地域活力創造課</p>																								